

1年1組 算数科学習指導案

<場所> 1年1組教室

<授業者> 小林 万貴子

1. 単元名 「 ひきざん 」

2. 単元の目標

くり下がりのある減法を日常生活に生かそうとする意欲を持つ。

10いくつかから1位数をひいて、差が1位数になる減法の計算原理や方法を理解し、正しく計算できる。

10いくつかから1位数をひいて、差が1位数になる減法の適用問題を解いたり、問題を作ったりできる。

10いくつかから1位数をひいて、差が1位数になる減法の計算カードを用いて計算の練習をし計算に習熟する。

3. 児童の実態

1学期の10までのひきざんにおいて、計算練習をさせると、どんどん進めていく児童と、ブロックや指を使いながらやっとで答えを出す児童がいるなど、その能力差はこの1年生時においてすら大きい。本単元の導入にあたって、反射的に答えを出せる児童と今までとの違いも理解しづらい児童が出る事が考えられる。

4. 金銭教育とのかかわり

数を扱う算数科の授業自体が金銭教育と大きく関わりがあると考えられる。金銭感覚も数の大小・量感覚ができていてこそである。また、計算が正しくできなければ実生活でのお金の勘定に困ることもある。しかし、ただ単に計算力をつけるということだけでなく、算数科では日常の事象について見通しを持ち筋道を立てて考える能力を育てるといった大きな目標があり、このことは、一定のお金をどのように使うか、あるいは、自分の生活設計をどのように立てていくか等、見通しを持ちながら生活していくという事に、大きく関わってくるものと考えられる。子どもたちの毎日の生活の中にも、常に意識していくことである。時間への見通し(遊び・学習)をもって行動できる事などもそうである。

本単元では、繰り下がりのある学習をする。これは、買い物をした時のおつりをもらうという日常の中に繰り返し表れる場面で、金銭教育に直接関わる単元である。更に、本時の授業においては、13から9をどのようにしてひくか見通しを持つ場面を大切にすることによって、見通しを持ち筋道を立てて考える能力を育てていきたい。

5. 単元について

くり下がりのある減法の計算の考え方には、減加法と減減法の大きく2つが上げられるが、指導の軸としては減加法をまず十分に理解させた上で減減法を提示していく。

位を意識させるために筆算を導入する。

十のかたまりをより強く意識させるための教材・教具を準備する。

最終的には、反射的に答えが求められるよう順次計算に習熟させていく。

6. 本時について(1/10)

本時では、本単元の第1時である。よって、今までやったひきざんとの違いがわかり、どのようにして、13から9をひくか見通しを持って考えることが本時は大切になってくる。

そのための工夫として、まず、今までの繰り下がりのないひきざんの復習問題を導入時に取り入れ違いがよりはっきりと分かるようにした。

次に、10のかたまりとバラを意識しやすいたまごのパックを使う事で、10のかたまりをばらにすれば13から9がひけそうであるという見通しを持ちやすくした。また、操作を助けるためには、位取りカードを準備した。

確かめる段階では、物をかえても(たまごからお金)同じであることを確かめ、計算の仕方をより確かなものにするようにした。

7. 本時のねらい

具体物（たまごのパック、お金）やブロックの操作活動を通して、くり下がりのある減法の計算の仕方がわかる。

8. 本時の展開

	学 習 活 動	指 導 ・ 援 助
課 題 を つ か む	ひきさんの学習を思い出す。 本時の問題をつかむことができる。 たまごが13こあります。 9こつかうと、のこりはなんこでしょう。 式をつくる。 $13 - 9$	今までの学習の復習問題を出す。 問題をノートに書かせる。 全員で声を揃えて問題を読ませる。 立式の確認では、問題文の言葉に関わって根拠を明らかにする。 10こ1ケースのたまご1パックとバラ3こを準備する。
	本時の課題をつかむことができる。 13 - 9のような計算をどのようにしたらいいかをお話ししよう。	今から児童が取り組もうとしている事をそのまま本時の課題にする。
ふ か め る	問題解決の見通しをブロックを使って持つことができる。 考え方1. $13 - 9 = 10 - 9 + 3$ $= 1 + 3$ $= 4$ 考え方2. $13 - 9 = 10 - (9 - 3)$ $= 10 - 6$ $= 4$ 考え方3. かぞえ引きで4 間違い例 $13 - 9 = 10 + 9 - 3$ $= 16$	位取りカードを準備する。 操作活動がうまくできない子に対しては、お助けコーナーでヒントを与える。 かぞえ引きの子に対しては、10の合成分解図を見せる。
確 か め る	計算の仕方を説明する。 <まとめ> 13 - 9のような計算は、10のたばと3のバラと見て、引いていけばよい	考え方を持てた子に対しては、考えをお話してできるよう助言をする。 考え方2・考え方3が出なければあえて出さない。
	くり下がりのあるひきさんの計算の仕方を確かなものにする。 評価問題 p 80 えんぴつ問題(1) 12 - 9	お金を使って練習問題をする。 評価規準 <数学的な考え方> くり下がりのある減法の計算の仕方がわかる